

事務局通信

「サイチョウ専門家
グループの活動紹介」
【2 ページ】

オナガサイチョウの保全に
関する情報を掲載しました。



JASTE30のお知らせ

第 30 回日本熱帯生態学会年次大会(東広島)

日程: 2020 年 6 月 12 日(金) 午後 編集委員会, 評議会
6 月 13 日(土) 午前 一般発表, 企画発表, 総会
午後 吉良賞授賞式・講演, 懇親会
6 月 14 日(日) 午前 一般発表, 企画発表
午後 公開シンポジウム

会場: 広島大学東広島キャンパス

〒739-8521 東広島市鏡山 1-7-1

大会事務局連絡先:

広島大学大学院 統合生命科学研究科 奥田 敏統

TEL: 082-424-6513

Email: okudat-empat@hiroshima-u.ac.jp

熱帯生態学会設立から 30 年という切りの良い年の大会を広島で開催するにあたり, 大変光栄に思います. 同時に, 志を同じくする友人が集まり, 語り合える機会があることの有難さ, まさに, 「有朋自遠方来, 不亦乐乎」の心境です. ところで, 開催地である東広島市(旧西条町)は全国的にも有数の酒どころでもあります. 山野に囲まれた大学キャンパスで「一杯一杯復一杯」と盃を重ねていただければ, 山中で花が咲くかもしれません. 李白先生のように, 「有意抱琴來(琴でも提げてきてくだされ)」とは申しません. 是非, 熱帯の「おもろい話」を持ち寄って, 大いに話に花を咲かせましょう.

若手の国際学会(ATBC)参加に対する渡航費支援の募集

日本熱帯生態学会は, 今年度から若手研究者の国際学会発表支援および ATBC (Association for Tropical Biology & Conservation) との連携強化を目的として, 若手研究者(学生含む)の ATBC 参加に対する渡航費支援を下記の通り行います. 今年度は総会での承認を待って実施するため, 事後の支援となります. 今年度行われた ATBC2019(マダガスカル)ならびに ATBC Asia-Pacific Chapter Meeting 2019(スリランカ)に参加された若手研究者の方で支援を希望する方がおられましたら, 奮ってご応募ください. ご不明な点などございましたら, 学会事務局(jaste.adm@gmail.com)までお願い致します.

掲載記事

- 1 事務局通信
JASTE30 のお知らせ
若手の国際学会(ATBC)
参加に対する渡航費
支援の募集
- 2 IUCN サイチョウ専門家
グループの活動紹介
北村俊平

- ・応募資格:40歳未満の JASTE 会員(2020年3月31日時点)
- ・対象となる研究集会:ATBC(全体会議および Asia-Pacific Chapter)
- ・助成金額:1件あたり10万円を上限とする(予算総額20万円)
- ・応募締切:2019年12月13日
- ・助成予定件数:2~4件(総額20万円)
- ・応募方法:助成申請書(書式は任意だが、以下の項目を含む:ATBCの大会名称,発表タイトル,要旨,助成を希望する理由(他の研究費の利用状況など含む),希望する助成金額,助成金の振込先口座)を Word 等で作成し,学会事務局宛にメールで送付する(jaste.adm@gmail.com).
- ・助成決定:学会事務局にて助成の可否を審査する.審査後,応募者全員に助成の可否を連絡する.助成が決定した場合,応募者指定の口座へ助成金が振り込まれる.
- ・助成条件:大会参加報告(1ページ程度)を日本熱帯生態学会ニューズレターで報告する.

※なお2020年度からは事前申請となります. ATBC2020大会および ATBC Asia-Pacific Chapter Meeting2020の公募は2020年2月頃にアナウンスを行う予定です.

IUCN サイチョウ専門家グループの活動紹介

北村俊平(石川県立大学)

Introduction to activities of IUCN Hornbill Specialist Group

KITAMURA Shumpei (Ishikawa Prefectural University)

はじめに

筆者は1997年よりタイの共同研究者らとともにサイチョウ類の種子散布者としての生態系機能を研究してきた. その縁もあり, 数年前から IUCN Hornbill Specialist Group (<https://iucnhornbills.org/>) に参加している. 本稿では, サイチョウ類の中でも「赤い象牙」と呼ばれる頭骨(写真1)をターゲットにした密猟・密輸により, 個体数が激減しているオナガサイチョウ *Rhinoplax vigil* の現状について紹介し, 本種の生息地域で活動する会員のみなさんからの目撃情報の提供を期待したい.



写真1:「赤い象牙」と呼ばれるオナガサイチョウの頭骨標本(タイ国サイチョウプロジェクト所蔵, 2010年9月14日撮影).

IUCN Hornbill Specialist Group の概要

IUCN(国際自然保護連合)とは, 世界的な協力関係のもと1948年に設立された国際的な自然保護ネットワークであり, 国家, 政府機関, 非政府機関などで構成されている. この中に生物多様性の保護に取り組む専門家からなるネットワークがあり, 6つの専門委員会で構成されている. そのうちの 하나가種の保存委員会(SSC:Species Survival Commission)で, 筆者が所属する Hornbill Specialist Group もこの中に多数あるグループの一つである.

Hornbill Specialist Group のように分類群ごとのグループもあれば, Climate Change や Invasive Species のような分野横断的なグループもある. 例えば, Bird の

カテゴリーには, Asian Songbird Trade, Bustard, Cormorant, Crane, Diver/Loon, Duck, Flamingo, Galliforme, Goose, Heron, Hornbill, Pelican, Penguin, Stork, Ibis and Spoonbill, Swan, Threatened waterfowl, Vulture, Woodcock and Snipe など, 18のグループが含まれている.

Hornbill Specialist Group 自体は1980年代から存在していたが, 活動実態はほとんどなかった. その後, オナガサイチョウの急激な減少に危機感を募らせた研究者が中心となり, 2017年10月に再結成された.

サイチョウ類がアジアとアフリカに生息することもあり、グループの共同議長は南アフリカの Lucy Kemp 博士とインドの Aparajita Datta 博士が務めている。Kemp 博士は南アフリカの Mabula Gound Hornbill Project のプロジェクトリーダーとして、ミナミサイチョウの保全を精力的にすすめている。Datta 博士はインドのアルナーチャル・プラデーシュで筆者と同時期にサイチョウ類の種子散布者としての生態系機能に着目した研究を行い、現在はインドの Nature Conservation Foundation で、サイチョウ類の保全に力を入れている。

Hornbill Specialist Group は現在、128 名のメンバーと 14 のグループから構成されている (<https://iucnhornbills.org/iucn-hornbill-members/>)。アジアでサイチョウ類が分布する 19 개국 (バングラデシュ, ブータン, ブルネイ, カンボジア, 中国, インド, インドネシア, ラオス, マレーシア, ミャンマー, ネパール, パキスタン, パプアニューギニア, フィリピン, シンガポール, ソロモン諸島, スリランカ, タイ, ベトナム)のうち、下線を引いた国以外の 14 개국に関連するメンバーが Hornbill Specialist Group に参加しており、ほぼすべての生息域をカバーしている。

このグループ内に 7 つのワーキンググループが設置されているが、現在は緊急を要するオナガサイチョウのワーキンググループの活動が主となっている。ただし、2018 年 8 月 26 日から 28 日にバンコクのカセサート大学で最初の運営委員会が開催されたばかりで、歴史の長い他の分類群のグループと比べると活動実績はまだ少ない。

オナガサイチョウとは

Hornbill Specialist Group の活動が再開されたきっかけは、2012 年ごろから密猟されたオナガサイチョウの頭骨が多数、押収されたことにある。サイチョウ類の特徴の一つは巨大なくちばしの上に見られるカスクと呼ばれる構造物である。ほとんどサイチョウ類では、このカスクの中身はスカスカであるが、オナガサイチョウだけは、例外的に中身が詰まって硬い。

本種の頭骨を利用した工芸品は古くから知られており (Munsri 1972, Kane 1981, Liang et al. 2014), 本ニューズレターでも国際サイチョウ会議の参加報告としてオナガサイチョウの密猟・密輸の事例を紹介してきた (北村 2013, 2017)。10 年前には「準絶滅危惧種」だった本種の保全状況が「絶滅寸前 (近絶滅種)」にまで急速に悪化したのは、近年、中国の富裕層を中心とした需要の高まりが理由と考えられている (Bale 2018)。

オナガサイチョウはブルネイ、インドネシア (スマトラ, カリマンタン), マレーシア (半島マレーシア, サバ, サラワク), ミャンマー, タイの 5 개국の熱帯雨林に生息しており、分布は比較的広い。しかし、個体数密度は 1 平方キロメートルあたり 1 個体以下の地域がほとんどで (Jain et al. 2018a), 東南アジアの熱帯雨林での経験が長い本ニューズレターの読者であっても近年、本種を見たことがある人は少ないのではないだろうか。

ただし、人の笑い声のような特徴的な鳴き声から、本種の生息は容易に判断することができる。また、本種はイチジクを好んで採食し (Kitamura 2011), 林冠で大量に結実する半着生イチジクの種子散布者としても有効に機能している (Nakabayashi et al. 2019)。密猟者たちは、本種のイチジクを好む採食生態をうまく利用して、大量に果実を実らせた半着生イチジクの下などで待ち伏せして、狙い撃ちに行っているらしい。

2010 年から 2017 年の間に押収されたオナガサイチョウの頭骨は少なくとも 2,878 個におよぶ (中国本土: 1,089 個, 香港: 237 個, カリマンタン: 1,155 個, スマトラ: 69 個, ジャワ: 321 個など, Jain et al. 2018a)。急速な需要の高まりを後押ししたのは、SNS の普及により、現地の密猟者が売人を介した注文や売買を行いやすくなったことだけではなく、地域住民やバードウォッチャーなどによるオナガサイチョウの目撃情報 (位置情報付きの写真など) にアクセスしやすくなったことも一因と考えられる。

現在、オナガサイチョウの保全は、2018 年に策定された 10 年間の保全戦略と行動指針に基づいて行われている (Jain et al. 2018a)。具体的には、1) オナガサイチョウ関連の売買をなくすこと、2) オナガサイチョウ個体群とその生息環境を保護すること、3) オナガサイチョウの存続個体数を維持するため、また、売買やその他の脅威の影響から回復するために必要な情報を収集・共有すること、という 3 つのゴールが掲げられている。

この保全戦略と行動指針を紹介した論文では (Jain et al. 2018b), 読者ができることとして、オナガサイチョウの目撃情報の収集をあげている。本種はよく目立つ割に基礎情報の収集が遅れている。その理由の一つは、オナガサイチョウが生き残っている場所は基礎情報が蓄積されている国立公園などの保護区を除くと、国境沿いに残された森林などアクセスが難しい場所が多いためである。もちろん、Hornbill Specialist Group でも目撃情報の収集を行っている。もし本種の生息域で調査中、オナガサイチョウを見かけることがあれば (SNS に載せるのではなく)、その目撃情報を筆者までお知らせいただくと幸いである。

引用文献

- Bale, R. 2018. オナガサイチョウ 狙われる東南アジアの珍鳥. ナショナルジオグラフィック日本語版 2018年11月号: 108-123.
- Jain A., Lee J.G.H., Chao N., Lees C., Orenstein R., Strange B.C., Chng S.C.L., Marthy W., Yeap C. A., Hadiprakarsa Y.Y. and Rao M. (eds.) 2018. *Helmeted Hornbill (Rhinoplax vigil): Status Review, Range-wide Conservation Strategy and Action Plan (2018-2027)*. IUCN Species Survival Commission Hornbill Specialist Group.
- Jain, A., Yeap C.A., Miller, A., Kaur, R., Yong, D.L., Bidayabha, T., Simbolon, F.H., Aung, T.D.W. Razali, H., & Lee, J.G.H. 2018b. Securing safe havens for the Helmeted Hornbill *Rhinoplax vigil*. *BirdingAsia* 30: 26-32.
- Kane, R. E. 1981. Hornbill ivory. *Gems & Gemology* 17(2): 96-97.
- Kitamura, S. 2011. Frugivory and seed dispersal by hornbills (Bucerotidae) in tropical forests. *Acta Oecologica* 37(6): 531-541.
- 北村俊平 2013. 国際サイチョウ会議 2013 参加記. *日本熱帯生態学会ニューズレター* 91: 8-10.
- 北村俊平 2017. 国際サイチョウ学会 2017 (IHC2017) 参加記. *日本熱帯生態学会ニューズレター* 109: 2-5.
- Liang, J., Li, H., Lu, T., Zhang, J., Shen, M., Zhou, J. 2014. Identification characteristics of natural and imitation hornbill ivory. *Journal of Gemmology* 34: 42-49.
- Munsri, A.S. 1972. Hornbill~Ho-Ting. *Gems & Gemology* 14(7): 208-211.
- Nakabahashi, M., Inoue, Y., Ahmad, A.H., Izawa, M. 2019. Limited directed seed dispersal in the canopy as one of the determinants of the low hemi-epiphytic figs' recruitments in Bornean rainforests. *PLoS ONE* 14(6): e0217590.

編集後記



春秋の鳥の渡りの時期には、時々、職場の窓ガラスにぶつかった野鳥が研究室に運び込まれます。今回運び込まれたムシクイの一種も大学の中庭に迷い込み、窓ガラスにぶつかって、軽い脳しんとうをを起こしていたようです。しばらく段ボールの中で安静にしておくと、1時間ほどで研究室の中を飛ぶようになり、タイミングを見計らって窓を開けると旅立っていきました。メボソムシクイ上種3種（メボソムシクイ、オオムシクイ、コムシクイ）のいずれかだと思われます（外見では同定が難しい）。最近の研究によるとメボソムシクイやオオムシクイはタイを經由した渡りを行っているようです。この個体も今頃は無事に越冬先へたどり着いたでしょうか？

写真：運び込まれたムシクイの一種（2019年10月7日撮影）。

ニューズレターへの投稿は、編集事務局：北村（shumpei@ishikawa-pu.ac.jp）・百村（hyaku@agr.kyushu-u.ac.jp）へ。

日本熱帯生態学会事務局

〒739-8529
広島県東広島市鏡山 1-5-1
広島大学国際協力研究科開発技術講座
Tel & Fax: 082-424-6929
E-mail: jaste.adm@gmail.com

The Japan Society of Tropical Ecology

Department of Development Technology
Graduate School for International Development and
Cooperation, Hiroshima University
1-5-1 Kagamiyama, Higashi-Hiroshima, Hiroshima
739-8529, Japan
Tel & Fax: +81-82-424-6929
E-mail: jaste.adm@gmail.com

日本熱帯生態学会ニューズレター 117号

編集 日本熱帯生態学会編集委員会
NL担当：北村俊平（石川県立大学）
百村帝彦（九州大学）

NL 編集事務局

〒921-8836 石川県野々市市末松 1 丁目 308 番地
石川県立大学 生物資源環境学部
環境科学科 植物生態学分野 (C210)
電話：076-227-7478, FAX：076-227-7410 (代表)

発行日 2019年11月25日
印刷 創文印刷工業株式会社 電話 03-3893-3692